

第 69 回大腸癌研究会

「括約筋切除を伴う肛門温存手術の妥当性」 研究班議事要旨

日時：2008 年 7 月 3 日

場所：横浜ベイホテル東急 B2F やまゆり

1. 多施設アンケート調査票の妥当性に関する論文作成について

研究班で使用したアンケートには(FIQL)をベースにした独自の質問項目が入っている。その妥当性を検証した投稿準備中の論文の報告を行った。

- Development and validation of a modified Fecal Incontinence Quality of Life measure for post-operative evaluation of Japanese patients with rectal cancer.

2. ISR, ESR の術後 QOL について

ISR(partial/subtotal/total), ESR の術式間で術後 QOL に有意差を認めない可能性も示唆されたが、今後、背景などを考慮した解析を行う必要があった。

3. 術後 QOL が 2 峰性になる傾向について

現在までのアンケート解析では、どの術式でも術後 QOL が 2 峰性になる傾向が示唆された。その原因について現在解析中である。

4. 今後の予定

2、3 の解析を早急に行い、APR vs ISR・ESR の術後 QOL に関する論文を作成予定である。